

2020年6月17日

仙台ターミナルビル株式会社

宮城県CLT等普及推進協議会

## “持続可能なショッピングセンターを目指して” エスパル仙台 本館 地下1階 エキチカキッチン「集中レジ」 バイオマスプラスチック製レジ袋を導入

仙台ターミナルビル株式会社(本社：宮城県仙台市、代表取締役社長：松崎 哲士郎)は、2020年7月1日(水)よりエスパル仙台 本館 地下1階「エキチカキッチン 集中レジ」へバイオマスプラスチック製レジ袋(※1)を導入いたします。

エスパル仙台 本館 地下1階「エキチカキッチン 集中レジ」では2019年4月19日(金)の「エキチカキッチン」リニューアルを機に、環境負荷軽減への取り組みとしてレジ袋を有料化いたしました。レジ袋有料化以降、お客様にはマイバッグ・マイバスケット持参をご協力いただき、2019年度は2018年度対比8トン分のレジ袋が削減され、CO<sub>2</sub>に換算すると44トンの削減実績となりました。

この度、エスパル仙台では、環境負荷軽減に向けて新たに「エキチカキッチン 集中レジ」のレジ袋(3L/5円、L/3円)を100%石油由来の素材から50%植物由来のバイオマスプラスチックを使用したレジ袋へ変更し、今年度はCO<sub>2</sub>排出量3.5トンを削減目標とし活動していきます。



なお、当該レジ袋の販売利益(2019年度実績：36万円)は、かねてより連携をしている「宮城県CLT等普及推進協議会」(※2)と、2021年3月末より公共の場などへの県産木材を使用した木製品の設置や、地域環境向上となる木育活動の推進を通して、森林の役割や木材を利用することの意義を普及啓発する活動に活用してまいります。

当社は、これからも持続可能な社会の実現に向けて、地域のお客さまと共に環境活動に取り組んでまいります。

(※1)「バイオマスプラスチック製レジ袋」とは

光合成によって二酸化炭素を消費し、成長する植物を原料とするレジ袋。従来の100%石油由来の素材と比較し、CO<sub>2</sub>排出量が削減でき、環境負荷軽減につながります。



この袋は植物由来の原料を配合しており、石油資源の節約とCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。

(※<sup>2</sup>) 「宮城県 CLT 等普及推進協議会」とは

木造建築に係わる産業の連携を促進し、CLT（木の繊維が直角方向で交わるように、板材を重ね接着した大判の木製パネル）や県産木材等の普及と地域産業の活性化、成長産業化等を目的として設立。県産木材を使用した木製品の設置や、木育活動の推進を行うことで、県産木材の利用拡大、地球温暖化対策を図っています。

エスパル仙台では当協議会より、2019年4月に本館 1階「CLT フレーム&ベンチ」、2020年3月に本館地下1階「インフォメーションカウンター&ベンチ」を寄贈いただき、日頃多くのお客様による利用を通じて、共に木材利用の普及啓発活動を行っています。



エスパル本館 1階「CLT フレーム&ベンチ」



本館 地下 1階「インフォメーションカウンター&ベンチ」

#### <本プレスリリースに関するお問い合わせ先>

仙台ターミナルビル株式会社 ショッピングセンター事業本部 エスパル仙台 営業 G 担当：鈴木

TEL：022-267-2111 Fax：022-227-3380

宮城県 CLT 等普及推進協議会 事務局（宮城県森林組合連合会内） 荒 久本

TEL：022-225-5991 Fax：022-225-5994 協議会ホームページ（<http://miyagi-clt.com/>）

◎本プレスリリースは、エスパル HP でもご覧いただけます。（<http://www.s-pal.jp/>）

◎本プレスリリースは、2020年6月17日(水)時点となります。今後、変更する場合もございますので、あらかじめご了承ください。